

# 今後の市民参画とその課題

地域のさまざまな課題を解決するために必要な、地域の皆さんとの協働社会を構築するため、全国的に行政への市民参画が進んでいます。そこで、市民参画を進めている「みのかも環境まちづくりプラン」を手がける川合眞二さんと行政側の星野総合政策課長に、今後の市民参画について伺いました。



(株) 創建環境エンジニアーズ  
川合眞二さん

## 美濃加茂らしい 市民主体のまちづくり

私は、行政が策定する福祉や環境づくりの計画の作成を十数年にお手伝いしてきましたが、「市民参画」を手がけるようになったのは5年ぐらい前からです。

市民参画といっても「言いつばなし、聞きつばなし」で終わるものも少なくありません。

地方分権が進む中で、取り組む姿勢の違いで、本当の市民参画が進む自治体とそうでないところが分かれる、今がちょうど過渡期だと思っています。

現在、手がけている「みのか

も環境まちづくりプラン」では、まず市民の皆さんが環境をよくするための事業提案を、自分たちで一から考え、それに対し、関係する市職員も加わって討議するという手法を取り入れました。おそろしく美濃加茂市では初めてのことです。

市民の人たちの思い、市職員の経験からくる判断のぶつかり合いの中で、一つの事業を実現するために、腹を割って建設的に話し合うという、新しい関わりが見られたと思います。

もちろん課題もありますが、「こんな環境のまちにしたい」と思う市民と、それを支えたいと思う市職員との顔の見える関係を育み、自ら考えた具体的な事業を共に実現するという成功体験を重ねていく中で、美濃加茂らしい市民主体の環境まちづくりが広まっていくのだと信じています。

## 市民参画が 自発的なまちづくりへ

地方への分権が進む中で、各地の自治体では、住民と行政が一体となった「まちづくり」が進められています。

それは、住民の皆さんが地域のニーズを一番敏感に感じることででき、そのニーズこそ「まちづくり」に必要なとされる要素であり、行政と住民の皆さんの協働が重要視されるようになったからです。

市でも、市民参画による事業が増えています。

今まで、事業計画の段階では、関係団体の代表者などにより、行政主導で計画書が作成され、市民の皆さんが加わることはあまりありませんでしたが、「行政改革事業」などでは、公募による市民の皆さんにも参加していただき、大いに活躍してい

ただきました。

また、「新都市軸プロジェクト（インターゾーン）」においては、計画段階から、地域住民や地権者の皆さんとの協働と参画のまちづくりを進めていきます。

今後の「まちづくり」の課題は、自主的に市の事業に参画する人をどのようにして増やしていくのかということです。

市民参画が、自発的な「まちづくり」へと発展し、ともに魅力的な「まちづくり」が進んでいくことを願っています。



総合政策課 星野広典課長